



令和4年度(2022年度)第72回"社会を明るくする運動" 作文コンテスト  
小学生の部【最優秀賞】

あいさつと言葉

多良間小学校 六年 島袋 創八

僕は、沖縄県宮古島からさらに離島の多良間島という小さな島に住んでいます。島のみんはだれにでもあいさつしてくれます。ぼくが、学校に行くとちゅうでも毎回あいさつをしてくれるおじさん、お婆さんがいます。学校を休んだ時も「だいじょうぶだった？」と声をかけてくれます。最初は、はずかしくて、あいさつをかえさなかったり、聞こえないふりをしたりしました。それでもあいさつをしてくれるおじさん、お婆さん。

六年生になって少しずつあいさつをかえせるようになってきました。あいさつをすると、スッキリして自分自身、気持ちよくなることに気がつきました。あいさつは学校生活でもとても大切です。先生や友達に「おはようございます」、授業の号令、帰りのあいさつなど、色々な場面で使います。あいさつがなくなると、気持ちの切り替えができずに、自分勝手な行動がふえて、人にめいわくをかけることも出てくると思います。

あいさつの大切さ、言葉の大切さは友達の間でも、必要になると思います。冗談のつもりの一言が、友達を傷つけていたり悲しませていることがあるかもしれません。僕も遊びの中で友達に言われた言葉が気になってイライラしたり、家に帰ってもイライラが止まらないこともありました。気持ちの切り替えができずに家でもイライラが伝染して、みんな不機嫌になります。ふとした言葉ひとつで、僕だけでなく僕を通して周りにも影響をしまうので、言葉はとても大切で重要だと思えます。

言葉やあいさつで、周りにいやな気持ちをさせるのではなく、明るく楽しい言葉を発していけば、自然に笑顔になり、明るく楽しい輪が連鎖していくのではないのでしょうか？

明るく楽しい社会は、ひとりひとりの少しの心がけでつくることができると思います。「おはようございます」の朝のあいさつだけでも気分が良くなるからです。「ありがとう」と素直に言うことや、自分が悪かったら「ごめんなさい」と言ったことは簡単そうですが、なんだか照れくさくて言えなかったりします。「言わなくてもわかるだろう」ではなく、ちゃんと言葉に出して相手に伝えることで、だれもいやな気分になりません。あいさつをするだけでみんながいい気分になります。だから社会を明るくするためには、あいさつをちゃんと言葉に出して伝えることが大事だと思います。